

## せんそうをしる

那覇市立天久小学校二年 知念 慶

ぼくは、かぞくで、ひめゆりのとうへおまいりにいきました。しきちの中に入ると、大きなあながあって、のぞいてみてもそこが見えないくらいふかくて、びっくりしました。

「ここがガマだったんだね。」

かぞくの話を書きいて、このあなの中はびよういんみたいなばしょだったのかなと、ふしぎに思いました。

しりようかんの中で、むかしのきょうか書を見ました。かずのおべんきょうでは、せん車やぐんかんでかぞえていました。国ごでは、「セントウキガトンデイル。」と書かれていました。また学校では、「お国のためにたたかいます。」とおしえられたそうです。今のぼくの学校とちがって、学校の中にせんそうがいっぱいあって、こわいなと思いました。

ぼくの学校では、へいわについて考えるおべんきょうがあります。せんそうの絵本を読んだり、おきなわせんの話を書いたりします。

「ばくだんがおちてこわいな。」

「かぞくがばらばらになって、かなしいな。」

と、クラスのみんなで話しあいました。だからぼくは、せんそ

うはよくないことだと思っています。

でも、ひめゆりのおねえさんたちはしりませんでした。せんそうがどんなにこわいのか。せんじょうでなにがおこるのか。

せんそうでは、たくさんのへいたいさんや、いっしょにいたお友達ちもなくなったそうです。

「少しでもせんそうであったことをしてもらえたら。」

とおばあさんはかなしそうにいいました。

ぼくは今、へいわなおきなわで生きています。でもむかし、ここではおそろしいせんそうがありました。せんそうのことをしると、今がへいわでよかったな、と思います。これから、へいわがつづくように、おきなわせんのことをしって、かんがえていきたいです。